

浄願寺だより

H29 夏 No.8

遠方にお住まいのご門徒さんから、定期的にお寺の近況を聞かせてほしい、とのご要望があり、このたび「浄願寺だより」としてお寺をとりまく身近な出来事を取りまとめ、お知らせしようと思います。夏・冬二回の発行を予定しています。

平成二十九年七月二十二日発行

編集責任者

浄願寺住職 関 秀法

お盆の迎え方

今年も暑いお盆をお迎えします。お盆は日本人の心に深く浸透し、また同時に誤解をされ続けている仏事も無いように思います。お盆とは元々は「盂蘭盆経（うらぼんきよう）」というお経に書かれている、目連尊者というお釈迦さまのお弟子とその母親にまつわる物語から生まれた仏事とされています。目連尊者の母親は、わが子可愛さのあまり、貪りの心をおこし、餓鬼道という地獄に落ちていきます。その哀れな母親を救う方法をお釈迦さまが目連尊者に説き示すという内容が「盂蘭盆経」には説かれています。（ちなみに「ウラボン」とは「逆さに吊るされた者」という古いインドの言葉だと言われています。「餓鬼の地獄に落ちて行く者」といった意味でしょう。「ウラ」盆と「オモテ」盆があるわけではありません。）

そのお経の内容から、お盆とは、「死後、餓鬼の地獄に落ちた人を救うため」の仏事、または「ご先祖様が成仏できるように」と勤める仏事かのように言い伝えられますが、はたして、それは本当にお釈迦さまが私たちに説きになったことなのでしょうか。

そもそも仏教は、お釈迦さまが、苦しみ悩む生きた人間を幸福に導くために説かれた教えです。ですから、死後の幸福や、死者を救うために説かれた教えは実は一つありません。

お釈迦さまはおそらく、「盂蘭盆経」の目連尊者とその母親のお話を通して、この世を生きる私たちこそ、餓鬼の地獄に落ちていくような生き方をしてはいないかと問いかけていらつしやるのでしよう。

愛も富も名声も、無ければ欲しい、あってももっと欲しい。欲しい欲しいと飢え続け、渇き続け、

苦しみ続ける人間の姿はまさに哀れな餓鬼の姿ではありませんか。また、そんな人間ばかりが生きる社会は、餓鬼道の地獄とお釈迦さまの目にはお見えになったのでしょうか。

ですから、お盆の仏事によって救われなくてはならないのは、決してご先祖様でも、亡くなった方々でもなく、今年もまた煩惱の炎を赤々と燃やしながら涼しい顔でお盆を迎えようとしているこの私たちであります。

もちろん宗派によっていろいろなお盆の迎え方がありますので、それぞれの方を否定することはありませんが、私たちの浄土真宗では、お盆に盆提灯を飾ったり、精霊棚を作ったり、先祖の霊のために迎え火・送り火を燃やしたりということは極力しない、という約束になっています。これは、先に述べたように、お盆が死者のための行事ではなく、生きている私たち

のために、お釈迦さまが残してくださった仏事であることを、より明確に伝えて行こうとするためです。

ですから、浄土真宗のお盆はいつも通りのお仏壇のお飾りでお迎えいただいたら結構かと思えます。ただできましたら、ご家族そろってお仏壇に手を合わせ、遠く遠くご先祖様方から受け継いだこの命をどう燃やしたい、どう生きて生きたいのか、想いを巡らせる良き仏縁としていただけたらと存じます。

平成二十九年 盂蘭盆

住職



お仏壇の荘厳

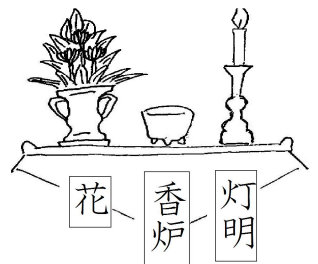
先の文章で、「浄土真宗のお盆は、いつも通りのお仏壇のお飾りで迎えください」と申しました。では「いつも通りのお飾り」とはどんなお飾りでしょう。

皆さんのお家のお仏壇を様々な仏具で飾ることを、「荘厳（しょうこん）」といいます。

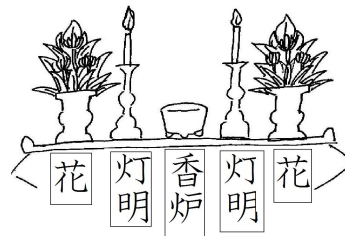
一般的にはお仏壇の中ほどの段に仏具を置く段があるうかと思えます。ここに置く「ロウソク（灯明）・香炉・花（花瓶）」を三具足（みつぐそく）といい、これが荘厳の一番基本的な形となります。また、ご法事や報恩講など、特に改まった仏事をお迎えの際には、五具足（ごぐそく）といってより豪華な飾りにすることもあります。

もちろんお仏壇のサイズや形状によって、その通りに出来ないこともありますし、お仏壇の中で火を使うことが不安な方は仏壇の前に机を置いて、そこでロウソクや線香をお使いになっても良いと思います。わかりにくい時は、住職におたずねください。

三具足



五具足



お寺の掲示板より

人は別れてくると

手ではなれば

ならぬことを

思ひするようになる

字・関 秀實

門徒の広場はWEB版では
ご覧いただけません。

浄願寺の

永代供養墓

お墓の管理や、後継者に不安をお持ちの方へ。
永代供養墓への埋葬・改葬も選択肢の一つです。
浄願寺永代供養墓は車道に面したお参りのしやすいお墓です。
詳しくは浄願寺ホームページか住職までおたずねください。

編集後記

妻（坊守）が福知山にやってきて約10年になります。

最近の暑さのせい、今年は巨大なゴキブリとよく家の中で遭遇するのですが、昔は家の中で虫を見るたびに「ワァ」とか「キヤァ」とか言って逃げ回っていた妻も、最近ではゴキブリぐらゐでは急ぎも慌てもしません。虫取り網で取って外に出しています。

私よりもっとかりお寺の環境に順応しているのは妻の方のようです。

浄土真宗本願寺派
笹尾山 浄願寺

〒620-0925
福知山市上篠尾725
電話(0773)-22-5280
email jyouganjiweb@gmail.com
http://www.jyouganji.com

住職 関 秀法